

全国民が愕然！厚労省“改ざんデータ”で判明！

ワクチンを打った人の方が

新型コロナウイルスに

罹りやすかった

「ワクチンを打つとコロナに感染しやすくなる」と聞かされたら、人はどう反応するだろう。ある人は「理解できない」と困惑し、ある人は「騙された」と怒りだし、またある人は「信じない」と拒絶するかもしれない。だが、これは厚労省が公式に発表しているデータによる分析である。そしてその事実は、ほとんど報じられさえせず、黙殺されようとしている――



大きく変わったのは、「未接種者」の取り扱いだ。「それまで、ワクチンは打つたけれど正確な接種日時などがわからない新規陽性者」を、「未接種」に分類していたんです。しかしこの分類だと、打っているのに感染した人

厚労省の集計データは間違っているのではないかと、そう直感した小島氏が、知人の国会議員に伝えたところ、この件が国会で質疑された。すると、厚労省は突如として、データの集計の仕方を変更した。

数値の改ざんに等しい大問題

「もう4回目の接種券が届いたよ。2回目は40℃近い熱が出たし、3回目は副反応は弱いつて聞いていたのに腕があらなくなったし。それでもやっぱりコロナは怖いから、打たなきゃダメよね……」60代女性のそんなつぶやきに、友人が答える。「えっ、4回目も打つつもりなの？ もういい加減にやめた方がいいんじゃない。私も3回打ったけど、ワクチンを打つたびに体が弱っていくような気がするのよ」

厚労省の集計データは間違っているのではないかと、そう直感した小島氏が、知人の国会議員に伝えたところ、この件が国会で質疑された。すると、厚労省は突如として、データの集計の仕方を変更した。

数値の改ざんに等しい大問題

が、打っていないで感染した人とされてしまいます。つまり、ワクチンの感染予防効果が実際より高く見えてしまっていました（全国紙記者）

4月11日以降のデータからは、それまで接種歴があるのに正確な接種日時などがわからないため「未接種」とされてきた陽性者が「接種歴不明」に分類されるようになった。

実際、下表にあるように、集計方法が変わったことでワクチンの「未接種」は7万6877人（4月4～10日）から、3万3207人（4月11～17日）に激減。一方、正しく振り分けられた「接種歴不明」は3万7146人から7万8488人に激増した。

「未接種」での新規陽性者が大幅に減ったことで、ワクチン接種歴と新規陽性者の関係は一変した。

前述の通り、従来の「間違った」集計方法では、未接種の方が2回目、3回目の接種を終えた人より10万人あたりの新規陽性者が多かった。しかし正しい集計方法に改められたことにより、未接種と2回接種の新規陽性者数にほとんど差がなくなった。むしろ、138ページのグラフを見ればわかる通り、「40～49才」「60～64才」「65～69才」「70～79才」では、未接種よりも2回接種の方が、10万人あたりの新規陽性者が多くな

医療機関や保健所が、新型コロナウイルスの新規感染者のデータを入力する厚生労働省のシステム「HERISYS」。そこには、感染者の年齢や性別、ワクチンの接種歴が入力され、コロナ対策のための重要で膨大なデータが蓄積されている。ワクチンの接種歴に限って見ると、「未接種」「2回接

撃の分析データが公表された。だが、その大前提を覆す衝撃の分析データが公表された。

医療機関や保健所が、新型コロナウイルスの新規感染者のデータを入力する厚生労働省のシステム「HERISYS」。そこには、感染者の年齢や性別、ワクチンの接種歴が入力され、コロナ対策のための重要で膨大なデータが蓄積されている。ワクチンの接種歴に限って見ると、「未接種」「2回接

このデータが示すのは、「ワクチンを打った人の方が打たない人よりもコロナに罹りにくい」ということだ。誰がどう見ても、疑いの余地のない至極当然の結果だろう。だが、厚労省が集計したこのデータに疑いの眼差しを向けた専門家がいる。小児がんや難治性血液病の専門家で、遺伝子治療やワクチンにも詳しい、名古屋大学名誉教授の小島勢一氏である。

「海外の多くの研究では、オミクロン株に対してワクチンの感染予防効果が以前より低下したと報告されています。中には、効果は20%という調査もありました。」

「3回接種」「接種歴不明」に分けてカウントされる。例えば、オミクロン株の新規陽性者数の高止まりが懸念されていた今年4月4～10日の1週間では、すべての年代において、ワクチンの未接種者よりも2回目、3回目の接種を終えた人の方が、陽性者が少なかった。

「端的に言えば、2回ワクチンを打った人は、打っていない人と感染のしやすさは変わらない」という結果が導かれました。

それだけではありません。新たな集計方法で「接種歴不明」に分類されるようになった人たちも、詳細がわからないだけで、接種したことは間違いありません。その人たちには本来ならば「接種歴不明」

これが厚労省の新型コロナ陽性者数の“改ざんデータ”だ！

| 期間 | 新規陽性者の総数 | 未接種 | 2回接種 | 3回接種 | 接種歴不明 |
|-----------|----------|---------|---------|---------|---------|
| 4/4~4/10 | 23万6213人 | 7万6877人 | 9万226人 | 3万1964人 | 3万7146人 |
| 4/11~4/17 | 22万8013人 | 3万3207人 | 8万1015人 | 3万5303人 | 7万8488人 |

「未接種者」が大幅に減った！

「接種歴不明者」が大幅に増えた！

(厚労省の発表資料より)

しかし厚労省の集計データではワクチン接種者の感染予防効果が80～90%を維持しており、あまりに高いと不自然に思ったのです。厚労省の数値は、同じ「HERISYS」のデータを用いているはずの国立感染症研究所（感染研）の数値と比べても大きく異なり、不審に思いました」（小島氏）

このデータが示すのは、「ワクチンを打った人の方が打たない人よりもコロナに罹りにくい」ということだ。誰がどう見ても、疑いの余地のない至極当然の結果だろう。だが、厚労省が集計したこのデータに疑いの眼差しを向けた専門家がいる。小児がんや難治性血液病の専門家で、遺伝子治療やワクチンにも詳しい、名古屋大学名誉教授の小島勢一氏である。

「海外の多くの研究では、オミクロン株に対してワクチンの感染予防効果が以前より低下したと報告されています。中には、効果は20%という調査もありました。」

「3回接種」「接種歴不明」に分けてカウントされる。例えば、オミクロン株の新規陽性者数の高止まりが懸念されていた今年4月4～10日の1週間では、すべての年代において、ワクチンの未接種者よりも2回目、3回目の接種を終えた人の方が、陽性者が少なかった。

ついでにしよう

「ワクチンは切り札」 だったはずなのに

フランス在住のジャーナリストの羽生の子氏が、デンマークの事例を挙げる。

「昨年12月、デンマーク当局が公表した資料によると、2回接種者の感染リスクが、未接種者の1・3倍だったと指

摘されています」
コロナを防ぐはずのワクチンを打つと逆にコロナに感染しやすくなる——なぜそのような「想定外」が起きたのか。「ワクチン接種後は気が緩むので、マスクを外して大声を出したり、夜の街に繰り出すなどハイリスクの行動を取りやすくなる」
よく聞かれるのが、こうし

た「気の緩み論」だ。
だがウェブサイトに「Think Vaccine」がワクチン接種者と未接種者それぞれ408人に行ったアンケートでは、感染対策の取り組みに大きな違いはなかった。「接種者、未接種者とも三密回避などの感染対策を緩和したのは3割ほどで同程度でした。この結果からは接種後に気が緩んで感染したとは考えにくい」（小島氏・以下同）
そうすると、「ワクチンそのものが悪い」という疑念は拭えなくなる。
日本で使用されるファイザーやモデルナのワクチンは「mRNAワクチン」と呼ばれるタイプで、人間の細胞内に「スパイクたんぱく質」を産生する遺伝子の設計図を打ち込む。このスパイクたんぱく質は体内の免疫系が反応すると、新型コロナウイルスの感染を予防する「抗体」がつくられるというメカニズムだ。
一方で、本格的なワクチンとして「mRNAワクチン」が使われるのは人類史上初めてであり、人体への影響すべてが詳らかになっていないわけではない。

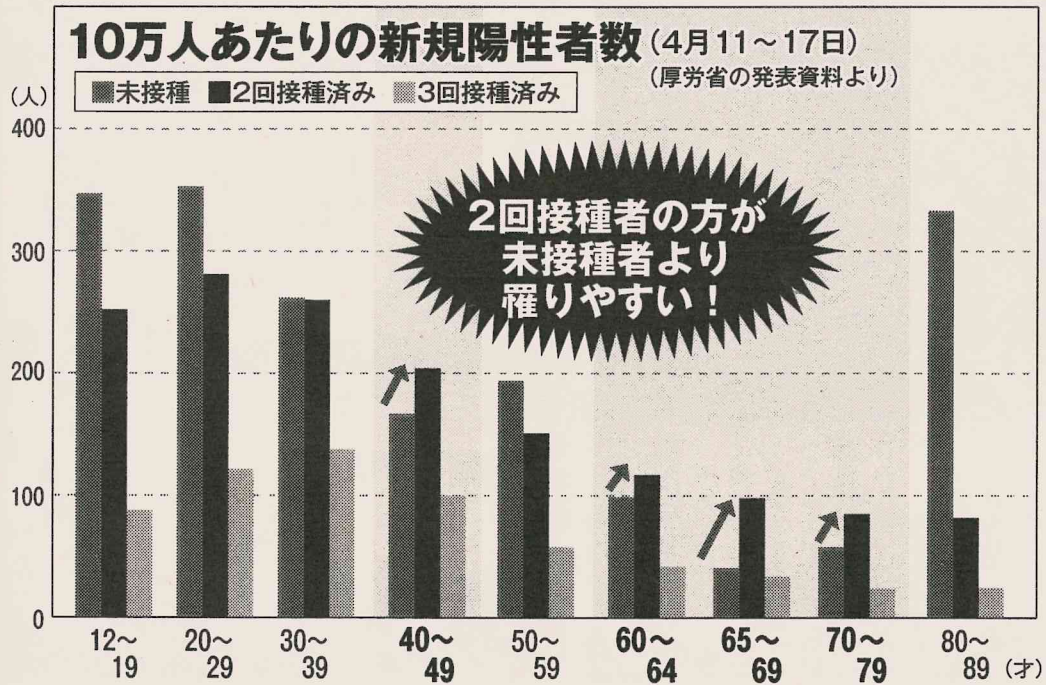
「ワクチンの効果は時間が経過すると薄れることは以前から説明されてきた。効果が完全に消えたら、未接種者と同じスタートラインに戻るはずだ。それは問題ない。だが小島氏の試算から見えてきたのは、「2回接種者の方が未接種者よりもコロナに感染しやすくなる」という、衝撃の結果だったのである。

「感染予防効果がなくなるだけならまだしも、ゼロでどまらずマイナスに陥ったのは憂慮すべき事態です。」
厚労省は、指摘を受けなければ集計方法を変えなかったかもしれないし、過去にはこの集計データをもとに、ワクチンの効果の高さを謳っていたこともあり、さらさら問題です」

同様の「誤った」集計方法は、ドイツのバイエルン州でも行われており、昨年末に現地新聞の指摘で見直されたケースがある。

「そうしたこと把握していながら、事態に即していない集計を続けていたのだとしたら、厚労省による数値の「改ざん」に等しい大問題だと言

は、早くも把握していな



2回接種の方が
未接種者より
罹りやすい!

仮に変異株に対応したワクチンを開発し、それを接種しても、期待した効果が得られない可能性は充分あります」
ワクチンは切り札ではなく、なっているかもしれないのだ。

帯状疱疹や口腔カンジダの患者が増えた

mRNAワクチンにはさらなる不安がある。

接種後に血小板が減少する副反応があることは厚労省が認めている。海外の研究者からは心筋症の発生が増えることも指摘されている。

小島氏は、接種後の「免疫力の低下」による疾患の発症を危惧する。

「私は臨床医として、感染症である帯状疱疹の患者が増えていることを実感しています。子供の頃に水ぼうそうを起すウイルスに感染した場合、そのウイルスは大人になって

も神経に沿って潜伏しています。免疫力が下がると体内に潜んでいたウイルスが再活性化し、神経に沿って痛みのある赤いぶつぶつが出ます。これが「帯状疱疹」です。

そのほか、カンジダという真菌（カビ）が口の中で繁殖する口腔カンジダも免疫力が低下しているときに生じやすい。帯状疱疹や口腔カンジダの患者が増えているということは、ワクチンを打ったこと



岸田文雄首相自ら、3回目接種の様子を発信した。(22年3月4日)

いといます。
当然、免疫力が落ちていれば、コロナに感染する可能性も高くなる。2回接種者の感染予防効果がマイナスに転じていたのは、ワクチンによる負の影響も考えられるのである。

過去の統計から見込まれる国全体の死者数の推定値を、実際の死者数がどれだけ上回ったかを示す数値を「超過死

に比べて、早晩効果がなくなるのではないかと小島氏は主張している。

「超過死亡は昨年1年で約6万人も増え、今年の2~3月になってさらに急増しています。コロナにより医療が逼迫し、適切な医療行為が受けられなかったとする意見もありますが、コロナ発生から3年目を迎えた今年の2~3月はそんな状況ではありませんでした。」
長いスパンで見ると、昨年4月12日にワクチンの高齢者接種が始まりましたが、その1週間後から、日本の超過死亡は突如プラスに転じました。その増加傾向は現在まで続いています。死者数の増加とワクチン接種の関係を否定するには材料が足りません。
また、感染研が、日本の超過死亡のデータを毎月公表しています。この6月に入ってから、突然集計方法を変えました。その変更は、過去に発表されたデータの数値にも影響しました。

変更前のデータと比べて、変更後は、高齢者のワクチン接種が始まって以降の「1週間あたりの超過死亡」の増加が観察された週数が、大幅に増えています。
さらに、新型コロナウイルス感染症以外の死因で超過死亡が起ったとも発表しています。これまで感染研は、超過死亡の要因としてワクチン接種の関与を否定していましたが、変更後はどのように説明するのか気になります」
ワクチンが死を招くことは起こりえない話ではない。
ワクチン戦略が広まり始めた当初、ワクチンには「95%の感染予防効果がある」と言われた。だが、接種した多くの人が感染した。
その後、「人口の7割が2回接種すれば集団免疫ができ、コロナは克服できる」と、社会生活を平常化させるために接種が推奨された。だが、7割が接種完了してもコロナは消えるどころか、さらに猛威を振るった。
接種後に感染するブレークスルー感染が増えること、接種の目的はいつの間にか「コロナに罹らない」ことから、「重症化を防ぐ」ことにすり替わった。

現在、政府は「重症化予防の意味がある」との理由でワクチンの4回目接種を推奨している。だがワクチンの重症化予防効果も感染予防効果と異なる特別なワクチンです。遺伝情報を打ち込み、いわば「人工のウイルス」を感染させることが最大の特徴ですが、産生されるスパイクたんぱく質が人体に与える悪影響にまでは充分配慮がされていない。血栓症や自己免疫疾患の発症などのデメリットが海外の論文で指摘されています」
そもそも日本のワクチン接種が本格化したのは昨年5月だった。当時の首義偉首相が「ワクチンは切り札だ」とハッパをかけて接種が進んだ。
今年6月13日時点で2回目の接種を終えた人は国内の全人口の8割。3回目も6割の人が接種を終えた。特に65才以上の高齢者は9割が3回目まで打ち終わっている。
「はしかや水ぼうそうのワクチンのように、子供のときに打っておけば効果が一生続くタイプのものもあります。しかし、コロナワクチンは想像以上に早く効果が弱くなっています」
ワクチンメーカーはウイルスの変異が発生しても、そのたびに対応するワクチンを生産すると言います。しかし免疫学には「抗原原罪」という理論があります。免疫システムの反応は最初に接したワクチンやウイルスの記憶に固執し、その後の変異株への対応力が低下するというものです。

内幕スクープ

坂本龍一(70) ステージIVがんと余命半年受け入れて覚悟の入籍



愛子(46) 雷隠れさせた悠仁(16)のズバリ評判

悠仁(16)のズバリ評判

King & Prince

史上最強!プレミアムキンプリスペシャル

キングダム プリンセス



「カツオ 異例大漁35倍」首都直下地震は明日かも!

特別定価 440円 6月30日号

総力特集 15ページ

期待しない生き方

自律神経の
名医が教える

病気を招く失望をせずに 軽やかに生きる健康術

夫婦の財布口座は別々にしなさい

新常識 70才を超えたら「寝たきり」を
ぜんぜん眠れなくなつて大丈夫

渡辺裕之も上島竜兵も老後はくり夫婦ふたりで があなたを苦しめる

作家・橋本さん「家族にもお金にも健康にも幸せを求めすぎではないけない」

全国民が愕然! 厚労省“改ざん”データでようやく判明! ワクチンを打った人の方が 新型コロナに罹りやすかった

純烈“新メンバー立候補者”の名前が豪華すぎて 松田聖子(60)再起ツアーは 卒寿の実母と亡き娘と 松本明子(56) 実家じまい恥ずかしながら私はここで失敗しました

夫が嫌な離婚ではなく 家庭内別居を選びなさい

スロージョギング vs ファーストウォーキング 始めるべきはどっち?

長引くコロナ禍で話す スキルがガク落ち!? 話し方の教科書

新わたらの時代に ラブシーンという性暴力 インテリシーコーディネーターは何を守るのか